

報告者：用松節子

今回の企画を各所で皆様にお伝えする中で、このような活動にITCの方々が大変興味を持たれていること、望まれていたことを実感する場面が何度もありました。

某勉強会でも「軽く宣伝させてください」から始まったはずなのに、質問が飛び交い結局1時間以上に話してしまったことも・・・。

何故皆さんがこの企画に興味をもたれるのか？

それは皆さんの中でこの「ITコーディネータ」の資格をどう生かしていくべきか、その本音の議論と模索の場を渴望していたからのように思います。

ITコーディネータのコンセプトはすばらしい。しかし、そのコンセプトを生かした形でビジネスとしてどう成り立たせていけるのか？

その狭間で皆さん悩まれ、このままの状態が続くならば、この資格そのものを更新しようかどうしようか（更新する価値があるのか）と考えられていた方も少なくないことも知りました。

しかし、今回の実践を通じて、大田区経営者の皆様から「ITコーディネータの方々って、最初は『うさんくさい人がまた来た』ぐらいに思っていたが、なんとなく今までの人達と（うまく言えないけど、いい意味で）違う気がする」という感想をいただいたり、都庁に助成金調査で伺い、担当者にITCの持つ役割・コンセプトをお話したところ、「そういう風に動いて現場のニーズを知り、伝えてくれる人材を本当に我々欲してるんです。そんなすばらしい資格あるんですね。うまく連携を取って、中小企業の活性化を進められないでしょうか」とのお言葉をいただいたりもしました。

（ま、都庁の方がITCをご存知なかったことに若干のショックはありましたが（笑））

上記はITコーディネータ的な役割の人材が今の世の中確実にニーズがある（ありそうだ）ということを指しています。

原点に戻ってしまうようですが、まずはこの実践活動でそれを体感できたことはこれから活動していく上での大きなエネルギーの源になるかと思えます。

あとはそれを、ボランティアでなく、ITCのビジネスとしてどう成り立たせていくか。

この活動が改めてそれを考えるきっかけになればと思っております。